

先日は、8月のてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、9月14日(土)で、「虫を狙う生きものたち」がテーマです。ぜひご参加ください。

* 市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、9月8日(日)の9:30からです。

8月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→博物館駐車場→手賀沼遊歩道→カッパ像前→手賀大橋北詰付近
→ミ二手賀沼→水の館
- 観察日時と天気：2019年8月10日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：34人(大人23人、中学生以下11人)
- 市民スタッフ：6人(石原直子、伊東茂子、木村稔、小泉伸夫、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博友の会ボランティア：2人(北村章子、古澤紀元)
- 鳥博職員：1人(岩本二郎)

観察した生き物の記録(下見を含む)

【鳥類】カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/ホオジロ科：ホオジロ/家禽および外来種：コブハクチョウ、ドバト

【爬虫類】ヤモリ科：ニホンヤモリ* /トカゲ科：ヒガシニホントカゲ

【両生類】アカガエル科：ウシガエル(幼生)

【魚類】コイ科：ツチフキ/カダヤシ科：カダヤシ

【昆虫】トンボ目：アオモンイトトンボ、クロイトトンボ*、ウチワヤンマ*、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ノシメトンボ、チョウトンボ、コシアキトンボ、ウスバキトンボ/バッタ目：ショウリョウバッタ、ショウリョウバッタモドキ、コバネイナゴ、ウスイロササキリ、クビキリギス(幼虫)/カマキリ目：オオカマキリ(幼虫)、チョウセンカマキリ/カメムシ目：ニイニイゼミ、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ツツジグンバイ、アワダチソウグンバイ/コウチュウ目：シロテンハナムグリ/ハエ目：シオヤアブ*/ハチ目：セグロアシナガバチ、ルリチュウレンジ/チョウ目：ナミアゲハ、アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、ジャコウアゲハ(幼虫)、ヤマトシジミ、ルリシジミ、キタキチョウ、モモトスカシバ*、アオイラガ(幼虫)、ヒロヘリアオイラガ(幼虫)

【クモ】タナグモ科：クサグモ(幼体)/ヒメグモ科：シロカネイソウロウグモ/アシナガグモ科：アシナガグモ/ジョロウグモ科：ジョロウグモ(幼体)/コガネグモ科：オニグモ、コガネグモ*、ナガコガネグモ

【植物】アヤメ科：オオニワゼキショウ/ツユクサ科：ツユクサ/イグサ科：クサイ/カヤツリグサ科：ヤマイ/イネ科：ギョウギシバ、メヒシバ、オヒシバ、シマスズメノヒエ、スズメノヒエ、セイバンモロコシ/ブドウ科、ヤブカラシ/アカバナ科：オオバナミズキンバイ、ユウゲショウ/マメ科：シロツメクサ/カタバミ科：カタバミ、オッタチカタバミ/ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ/アカネ科：ヘクソカズラ/ナス科：ワルナスビ/オオバコ科：オオバコ/シソ科：ボタンクサギ/キク科：カントウヨメナ、ハキダメギク、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、ブタナ、ノゲシ、セイヨウタンポポ

(注) *印は8月4日の下見の時にのみ確認した種

8月に観察した生き物の記録

今回のてがたんのテーマは「外来種って、どんな生きもの？」でした。そして、てがたんコースに生息する野鳥、セミ、トンボ、クモなどの動物や植物を観察しながら、外来種を探しました。また、身近に生息する生きものの中で、特定外来種に指定されている生きものはどれなのか、実物を見ながら、その特徴や見分け方を確認しました。



岩本 学芸員
今月の案内人



① ヒラヒラと飛んでいたチョウトンボ



② 鮮やかな赤色をしていたショウジョウトンボ



③ アオモンイトトンボのオス（左）とメス（右）



④ つや消しのうす茶色をしたツクツクボウシの抜け殻



歩いたルートと観察した生き物



⑤ 草地で餌を探すムクドリ



⑥ オオバナミズキンバイの花【特定外来生物】



⑦ ウシガエルのオタマジャクシ【特定外来生物】



⑧ ナガエツルノゲイトウの花【特定外来生物】



⑨ 立て札に隠れていたオニグモ



⑩ 水辺に多いナガコガネグモ



⑪ 脚と体が細長いアシナガグモ



⑫ アシナガグモの網にいたシロカネイソウロウグモ

今月の鳥 コブハクチョウ

カモ目カモ科

ヨーロッパ原産で、日本の他には北米、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドなどに導入されました。日本では毎年冬に在来種のオオハクチョウとコハクチョウが渡ってきますが、コブハクチョウはあまり渡りをせず、1年中見られます。手賀沼では1987年に一つがいに住み始め、1990年に最初の繁殖が確認されました。その後増え続け、手賀沼内では2018年には最大71羽が確認されています。



てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。